

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県】

学校名【福島県立平支援学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV (V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	肢体不自由の支援学校 小学部、中学部、高等部の1・2ブロックの生徒計28名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育科) ② 行事名 (パラサイクリング体験会) ③ その他 (聖火リレートーチ鑑賞会) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	パラサイクリング体験会を通して、スポーツの意義や価値への理解を深め、スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を図るとともに生涯を通して主体的にスポーツに親しむことができるようにする。
5 取組内容	○パラリンピック聖火リレートーチ鑑賞 体育の時間を中心に実際に生徒が手に持つことで、パラリンピックを身近に感じることができる。 ○パラサイクリング体験会 午前の部（小学部）11：30～12：10 午後の部（中・高等部）13：20～15：10 児童生徒が実際に自転車に乗る体験ができる。



<p>6 主な成果</p>	<p>パラサイクリング体験会には何種類の自転車があり、肢体不自由の生徒の実態に応じて、自転車の種類を選ぶことができた。独歩の児童生徒には、トライシル（三輪車）があり、自転車に乗れない生徒でもバランスが取れて、一人でペダルを漕いで運転することができた。タンDEM（二人乗り自転車）には、前に大人が乗ることで、後ろの生徒児童がペダルを漕ぐだけで自転車を運転することができた。また、車いすの生徒には、ハンドサイクル車があり、自分の車いすに手漕ぎの一輪車を取り付けることで、自分で運転することができたり、自転車の前輪上の椅子に座っているだけで、自転車を運転している体験ができたりと生徒全員が校庭の風を感じながら今までに経験できなかった自転車体験をすることができた。今回の体験会で児童生徒の意識の変容が見られた。「私達も自転車に乗ることができる。もっと乗ってみたい。」などの感想があり、当日も初めは怖がっていた生徒が多かったが、後半は積極的に色々な自転車に挑戦することができた。また、パラリンピックが身近に感じ、自分にも大会等に出場できる可能性があることを知り、これからもパラサイクリングに関わっていきたいと思う生徒もいた。そして、今まで以上にパラサイクリングに対する興味・関心をもち、スポーツを楽しむ心の育成を図ることができた。</p> <p>最後にほとんどの生徒が自転車の初体験ができたことは、肢体不自由の支援学校の生徒たちにとっては、大きな財産となった。今後もオリパラ教育を継続し、生涯を通して主体的にスポーツに親しむことができる生徒の育成が図れるように指導を充実させていきたい。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>福島県いわき市に日本パラサイクリング連盟の事務所が移転してきたことで、全日本監督や選手から直接話を聞いたり、指導を受けたりすることで、パラリンピックが身近に感じることができた。また、事前にパラリンピック聖火リレー―チ鑑賞会を本校ですること、さらに東京オリンピック・パラリンピック大会に大変興味関心を持つことができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>コロナの影響でソーシャルディスタンスを考えた時に小人数での活動に制限せざるを得ない状況あった。</p> <p>必要物品の購入に制限があり、効果的な指導が難しい。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>オリパラの推進校が終了しても学校独自で引き続きオリパラ種目等の教育や近隣の学校とのスポーツ交流を進めていきたい。</p> <p>できれば、パラサイクリング関係者との交流を今後も進めていきたい。</p>